

日中韓フォーサイト事業

事後評価（平成29（2017）年度採択課題）書面評価結果

日本側拠点機関名 大阪大学（産業科学研究所・教授・関野 徹）

研究交流課題名 有機－無機ナノハイブリッドプラットフォームを用いた腫瘍の精密イメージングと治療

評価結果（総合的評価）

- S 想定以上の成果をあげており、当初の目標は達成された。
- A 想定どおりの成果をあげており、当初の目標は達成された。
- B ある程度成果があがり、当初の目標もある程度達成された。
- C 成果が十分にあるとは言えず、当初の目標はほとんど達成されなかった。

所見

本課題では「有機－無機ナノハイブリッドプラットフォームを用いた腫瘍の精密イメージングと治療」を掲げ、正確な腫瘍診断及び治療のために知見を得ることを目標としている。事業期間後半のコロナ禍においては、東アジアを中心に渡航が難しかった環境でオンラインの交流をメインに進めるなど、制限がある中で国際共同研究の推進が可能な方法が模索され、各研究機関から個別の成果は得られたといえる。日本側の材料合成の技術力の高さが十分に活かされた、Dualのモダリティを達成するための材料設計・合成の成果は、国際的に高い水準にある。若手研究者育成への貢献については、若手主導のセミナーの企画立案や大学院生による研究発表等、積極的な交流とネットワーク構築の機会を設けており、構成員の採用・昇任等もあり、ある程度効果的に実施されたといえる。

一方で、新しい材料を作り、それを実地に生体応用する研究は、論文成果を得るまでに時間がかかることは理解できるものの、共同研究に関する論文の質・量ともに十分であるとは言い難く、成果報告書における実際に細胞・動物にどのように応用されたのかについての記述も少ない。国際交流が深化した研究交流拠点の構築という面では道半ばであるといえる。オンラインでのディスカッション、研究用試料の共有など、コロナ禍という規制がある中でも共同研究をより強力に推進することは可能であったと考える。本事業終了後も三カ国間の研究ネットワーク体制をさらに充実させ、継続的な国際共同研究の推進と成果の獲得を期待する。